うららかな春の日、大黒渦が押し寄せ、人、物すべてを飲み込んでいった。

春休みに長男が宮城の七ヶ浜に支援に行ったことがきっかけで、この４月から放射能による規制「警戒区域」が「避難指示解除準備区域」となった福島県南相馬市に８月３～４日の２日間、次男（中３）と共に支援に行ってきました。

福島第一原発から１５ｋｍ圏内ということもあり、災害支援は進んでいません。被災住民の方々はは自宅を離れ仮設住宅等での生活を余儀なくされ、現在やっと昼間だけは片づけに戻ることのできる状況下にありました。

放射能の不安もあってか（レベルはかなり下がっている）、支援ボランティアには「ほんもの」と呼ぶにふさわしい方々が集っていると感じました。偶然市長さんからの労いをいただく場面に出くわしました。ふるさとを取り戻したいと切に願う気持ち、怒り、感謝、様々な葛藤の中で、「ありがとう」という言葉を繰り返されました。

まだ手つかずの所が多く、作業はがれき撤去にのび放題の草刈りが中心でした。作業を共にしたボランティアの中には、広島の高校生男子、女子、奈良の植物屋さん（本人曰く）東京のだじゃれ好きのおじさん…。それぞれが思いをもって参加していました。気負いもなく、ごく自然に。皆黙々と汗を流しました。特に海岸地域は例に漏れず厳しい現状だったようです。高台で九死に一生を得た老夫婦は「真っ黒な大きな渦巻きが押し寄せてきて、すべてを飲み込んだ」と話されました。

自然が相手とはいえ、この地には放射能というもう一つの苦悩があります。あと２年くらいは住めないだろうとのことでした。

「住めるようになったら、遊びにおいで」と。　　H24.8.6 kodama

旅行でないので写真は…。奥は海岸、昼もモヤが立ちこめていました。

津波が押し寄せてきた痕。家は基礎部分しか残っていません。トラクターも車もそのままで。